

セブンスターの木周辺の白樺並木の伐採にかかる景観審議委員からの意見（公開版）

令和6年度第3回美瑛町景観審議会・自然環境保全協議会の書面会議を開催。セブンスターの木周辺の白樺並木の伐採について、委員からのご意見を踏まえ、町としての対応方針を検討するとともに、要望元の地域に委員からの意見を伝えるもの。

委員8名中7名の回答。

意見について集約した結果、次のとおりまとめられる。

- ・伐採については合意。やむを得ない。
- ・ただし、本件のみならず町内全域におけるオーバーツーリズム等の課題は深刻であり、関係者や地域で協議を行い、様々な方法を用いた解決策の検討や実行が急がれる。

意見の詳細は以下のとおり。

委員①

観光客や町内の写真家目線では伐採は残念なこととして受け止められると思われるが、営農に支障がある等の理由は十分に理解できるため、伐採の代替として考えられる方法が無いのであれば、伐採はやむを得ないと考える。

委員②

観光客、写真家の目線からすると白樺並木の伐採はとても残念なことであります。しかし、地権者の土地に植えられている木のため、景観審議会で審議しても結果が変わるものではないので、伐採されるのは受け入れる必要があります。

オーバーツーリズムの件では、観光資源が一つなくなるということになり観光客の動向は青い池、白ひげの滝、四季彩の丘などに集中し、場所によればさらなるオーバーツーリズムが発生すると思います。

対策の一つとして、観光客の観光目的地の分散を促す方法を考え、実行することが必要だと考えます。

委員③

この問題は、所有者の農家さんも町の観光行政も美瑛町特有の「丘の観光」を巡って、紆余曲折を経ながらも共通理解に至らず不満足な納得いかない合意のまま推移してきた残念な結果であると思います。

今更ながら、「哲学の木」の伐採直後に「重要景観樹木」の現状と将来的な見込みを含む抜本的見直しを徹底的に行って必要予算も追加し、所有者との円満な協定を不断に取り組む必要があったものと悔やまれます。マイルドセブンの木などもその例でした。まだまだ候補の木は存在しています。

今回の白樺並木にしても、写真を撮りたい観光客からすればセブンスターの木とセットとなっている一連の「重要景観樹木」そのものです。ましてや、北瑛から村山地区、美馬牛 Xmas の木などはコロナ禍前から、札幌からの日帰り大型観光バスが次第に増加傾向で問題が蓄積し深刻化していました。コロナ禍中は幸いにも鎮静化していたものの、以降の昨年辺りから全

国の景勝地で「オーバーツーリズム」が非難されてきているのは広く皆様方もご承知のとおりです。

効果的な解決方法が見つからない以上伐採もやむ負えないと思います。

議題の資料4にあるように、町も観光協会も苦戦している状況は、「丘のまち」を標榜する限り今後も続けて行かざる負えないでしょう。観光客への啓蒙と理解のための情報発信は重要ですが、何よりも札幌等発の観光バスへの抜本対策（効果的な新税と通行事前予約登録を含む通行コントロール等）ではないでしょうか。加えて前段で触れた「重要景観樹木等」の見直しが急務と思います。

委員④

伐採に賛成。

もとより、美瑛町の農村環境の眺望は、この地で農業に携わる先輩方によってもたらされました。よって、農業生産者こそ優先されるべきであり、悪影響が看過できない状況に至る昨今、マンパワーによる対策にはすでに限度があり、伐採は抜本的な解決としてやむを得ない選択と考えます。

観光と農業の閑散期である今こそが、伐採実施の時として適期であり、これより時が経てば本件の議論が外野によって著しく面白おかしく拡散されて、同情や理解、非難だけでなく中傷や嘲笑も交えた無責任な紛糾となることも容易に予想されることから、急ぎ伐採を実施することに賛成いたします。

委員⑤

伐採するのは止む無し。

これを機に、オーバーツーリズムについて皆で考え、議論を進めることも必要かもしれない。

委員⑥

私個人の意見としては白樺並木の伐採は賛成します。

観光名所の至る所で問題点となっているひとつであり、早かれ遅かれ大きな問題になってくると懸念しておりました。

景観を守る事も大事ですが、地域住民の安全確保、農業生産を守る事が第一と考えています。

これまで地域住民やパトロールの方々に、たくさんのご協力とご苦勞を重ねてこられた事に、心から感謝しなければいけないと改めて思いました。

この伐採を機に、他の木々も同様に考え改めなければならないと思います。

木の観光ロケーションに頼らない新たな観光スタイル、観光周知のアプローチの仕方を見直していかなければならないと強く思います。

委員⑦

基本的には所有者の希望が第一優先と考えます。木にも寿命があり、いつかは伐採しなくてはなりません。早かれ遅かれ伐採時期は来ますし、この事を次に活かし、今まで管理してきた所有者・地域の方々と「樹」に心から感謝したいと思います。

以上